

事業名称	子どもの学びを拓げる「体験する」博物館構築事業		
実行委員会	子どもの学びを拓げる博物館実行委員会		
中核館	東北歴史博物館		
	住所	〒985-0043 宮城県多賀城市高崎 1-22-1	
	TEL	022-368-0101	FAX 022-368-0103
	ホームページ	http://www.thm.pref.miyagi.jp	
構成団体	多賀城市立城南小学校		
事業開始時点の課題分析	<p>東北歴史博物館は、「参加し体感する博物館、宮城・東北の歴史・文化を楽しみながら体感できる博物館」を館の目標として掲げ、そのための事業を実施してきた。子どもを対象とする各種企画・催事もその一つとして好評を得てきたが、個人に対する短期的施策が中心で、学校教育との連携、学校の授業への対応がやや乏しく、課題となっている。平成30年度から移行期間に入る小学校の次期学習指導要領では、社会科全体の目標として、「資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身につけること」が掲げられている。また、第6学年の学習の取扱いにおいては、「博物館や資料館などの施設の活用、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れること、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図ること」が示されている。このことから、博物館と学校が連携し、子どもたちが学校の学習を深めるために自ら博物館を活用し、調べ、学び、学校の学習を拓げる博物館づくりが今以上に必要と考えられる。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、学校の授業と博物館の学びをつなげ、学校と子どもたちが利用しやすい博物館のモデルを構築することである。小学校と共働して、東北地方の歴史や文化を伝える歴史博物館の展示に、子どもたちの学びに効果的な体験活動を付加し、歴史と文化財に対する子どもたちの興味と理解の増進を図る。その結果、子どもたちが自らの意志で学びを拓げるために博物館を活用する状態を目指す。さらに地域にある文化財の大切さとそれを調査研究し、保存し、活用する仕事や学びの場を子どもたちに伝え、地域の文化財を守り伝える人材を育成する。また、博物館等施設で実施されている子ども向けの展示や学習プログラムなどの事例報告を題材として、子ども向けの展示やワークショップに必要な要素とは何かを議論し、学校と子どもが利用しやすい博物館像を模索する。</p>		
事業概要	<p>多賀城市立城南小学校と共働して、東北歴史博物館夏期特別展「タイムスリップ！縄文時代」と常設展を活用した体験学習プログラムを開発し、夏休みに子どもたちが自ら意欲を持って歴史を学習する場をつくる。本事業は、小学生の歴史学習の「身近な歴史を見つける」という基本テーマに対応して、宮城県が史跡里浜貝塚など縄文時代の遺跡が多数あるという地域の特色を活かし、小学校と共働して、子どもたちが楽しく歴史を学ぶための体験学習プログラムを提供するものである。</p> <p>縄文時代の土器や石器、貝塚出土の貝など本物に触れる体験を取り入れた縄文時代を学ぶ出前授業を実施し、子どもたちの歴史に対する興味を喚起した上で、特別展見学を実施する。これにより、縄文時代の暮らしと弥生時代の暮らしとの対比や身近な歴史を調べてまとめる学習など、学校の歴史授業と地域の歴史とを関連させて学びを拓げる。展示見学後にアンケートを実施し、出前授業が博物館の展示に興味を持つきっかけとなったか、学校の学びを深められたかなどを調査する。学校の学びと博物館の学びをつなげ、学校と子</p>		

	<p>どもたちが利用しやすい博物館づくりに生かす。</p> <p>また、特別展開催期間中には、子ども向け展示とワークショップを考える研究会を実施し、博物館が学校と子どもたちにとってもっと身近な存在となるための課題と今後のあり方を議論する。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニユアの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>展示を利用した体験学習について、博物館と小学校が共働して体験ツールと学習プログラムを開発し、子どもたちが楽しみながら自ら歴史を学ぶ機会を提供した。9月には、多賀城市立城南小学校4年生と6年生、南相馬市立石神小学校6年生を対象に博物館の展示を活用した「地域の特色ある歴史の学習」を実施した。特別展と常設展、博物館所蔵資料を活用して「体験」と「調べる学習」を取り入れた授業を実施し、学校の学びを拓ける取り組みを行った。これらの効果については、来場者観察や聞き取り調査、記入式アンケート調査から検証した。アンケート調査による15歳以下の子ども約170人の特別展満足度は非常に高く、また、地域の歴史の学習に取り組んだ小学校の児童のほとんどが、『歴史に対して以前より興味が湧いた』、『展示がおもしろかった』と答えた。小学校の授業として実施した、「本物に触れて観察する学び」や「グループで常設展示を調べて考える学習」について、楽しく歴史を学べたという感想が多かった。体験を通して歴史を学び、展示を観て考える学習は、多くの子どもたちに受け入れられ、学習意欲を高められたと考える。聞き取り調査からは、特別展に3回以上来場した子どもを多く確認できた。展示室を子どもたちが繰り返し行きたい身近な学びの場にできたと判断する。以上のことから、学校と子どもたちが利用しやすい博物館づくりの一つの方向性を示すことができ、想定した実施効果が得られたと考える。</p> <p>また、「子ども向け展示とワークショップを考える研究会」を平成30年9月6日、7日に実施した。博物館と美術館の教育普及事業担当者を中心に60人の参加があった。気づきと学びを促す「体験」や、わかりやすさを工夫することは、子どものための特別なものではなく、多くの人に有効なアプローチであるとの認識を共有できた。参加者からは、『現場担当者が意見交換する良い機会になった』との感想があった。研究会に参加したそ</p>

	れぞれが、子どもたちにできることのさらなる充実を実現するきっかけになったと考える。
--	---

【事業実績】

- 平成 30 年 7 月～11 月 特別展と常設展を利用した体験コーナーの設置と学びのプログラムを実施。
子ども向け展示解説書作成, 配布。
野外に縄文時代の利用植物を観察できる「縄文植物園」を設置。
小中高生利用者約 2,500 人。記入式アンケート(回答 170 人)による満足度満足 81.8%,
おおむね満足 11.2%の非常に高い満足度を得た。自由記述による感想では,体験コー
ナーがあることで,小学生でも歴史が楽しくわかりやすいとの回答が多かった。
聞き取り調査では,特別展に 3 回以上来場した子どもたちが多く,これまでの展示では
見られなかった効果があった。
- 平成 30 年 9 月 学校団体を対象とした,本物の資料に触れ,博物館の展示を活用する授業を実施。
多賀城市立城南小学校 6 年生と 4 年生,南相馬市立石神小学校 6 年生の児童合計
260 人が参加。記述式アンケートでは,このうち 257 人(98.8%)が,歴史に対して以前より
興味が湧いた,展示がおもしろかったと答えた。博物館を活用することで学習意欲を向
上できたと考える。
- 平成 30 年 9 月 6 日・7 日 子ども向け展示とワークショップを考える研究会を実施。
博物館・美術館教育普及担当者など約 60 人が参加。参加者からは,『現場担当者が
意見交換する良い機会になった』との感想があった。研究会に参加したそれぞれが,
子どもたちにできることのさらなる充実を実現するきっかけになったと考える。
- 平成 30 年 11 月 『子どもの学び広げる「体験する」博物館構築事業実施報告書』作成。